横浜市立 榎が丘小学校　令和　元　年度版　中期学校経営方針　（　令和　元　～　3　年度　）

学校教育目標	豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子 〇自ら学び、活用・探求する力をもった子どもを育てます。（知） 〇自分らしさを生かし、他の人との違いを認め合う子どもを育てます。（徳） 〇健康や安全の大切さを認識し、生き生きと活動する子どもを育てます。（体） 〇人やものと豊かにかかわり合い、共に生きる子どもを育てます。（公）

学校概要	創立　45　周年	学校長　仲川　美世子	副校長　堀　慶司	2　学期制	一般学級：19　個別支援学級：2
	児童生徒数：　636　人	主な関係校：　青葉台中学校　青葉台小学校			

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	青葉台中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
「自分づくりに関する力」 「言語能力」	青葉台中学校 青葉台小学校 榎が丘小学校	〇自分から進んで学び、他者と話し合いながら考えを深め、夢の実現を目指す子 〇自他を認め合い、心身ともに健康で、自分らしく行動する子 〇地域・社会との関わりを大切にし、世界や未来に目を向け、共生していく子 ・ブロック内の学校の授業、行事等をそれぞれの教員が参観・意見交換し、『「授業」のつながり』を意識しながら「各教科等の指導の重点」についてイメージをもつ。 ・ブロック合同行事を通じて、「だれもが　安心して　豊かに」過ごせる学校づくりに向けた「人間関係づくり」と「共通体験」の機会をもつ。

中期取組目標	○自分も相手も大切にする豊かなかかわり合いをもち、互いに磨き合う学校にします。 ・自分から学びを進め、じっくりと考えたことを発信する力を伸ばします。 ・自分のよさや相手のよさに気づき、豊かなコミュニケーションをもち、多様性の中で高め合うようにします。 ・心身ともに健康であることへの関心をもち、体力向上に向けて取り組みを進めます。 ・地域や保護者との連携を深め、社会とかかわりながら育つ環境をつくります。

重点取組分野	担当	具体的取組
生きて　はたらく知	学習評価推進部	①重点研究テーマを「豊かなかかわり合いを通して、主体的に学びを深めようとする子どもの育成」と設定し、子どもが目を輝かせる授業の実現を目指す。②青葉台中ブロックの重点課題である「自分づくりに関する力」「言語能力」の育成を目指し、教育課程の編成・実施・評価・改善に取り組む。
豊かな心	児童支援部	①年間を通じたたてわり活動や特別活動を通して、かかわりの中で、児童が自己有用感を感じられるようにする。②YPアセスメントや児童が一人一人のよさやがんばりを認め合う活動を設定し、親和的な集団を育成する。③スタンダードをもとにしたルールやきまりを守ることの指導と相手を意識したあいさつ運動を推進し、気持ちよく過ごせるようにする。
健やかな体	健康安全指導部	①長縄大会、世界1周マラソン、リズムアップ等体育的な活動を計画的に行う。②体力が向上してきたことを実感させながら、運動することが楽しいという気持ちを育てる。一人一人が自信をもてるような体育の授業につなげる。③栄養士、養護教諭と連携した食育の授業を進める。
公共心と社会参画	学習評価推進部	①特別活動や道徳科の学習を通して、規範意識を高める。②地域の人材を一覧にまとめ、生活科や総合的な学習の時間などにおいて、地域の人々や産業と関わり合いをもつ。③校外学習を通して、自分たちの生活が様々な産業や人々に支えられていることに気付き、自分たちも社会の一員であるという認識を高める。
特別支援教育	特別支援コーディネーター	①児童理解、児童指導力の向上を目指し、研修の場を設定する。支援を要する児童へのより適切な指導を目指して、具体的な手立ての理解を深め、職員の資質を高める。②ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰや療育センターと連携し、児童一人一人の課題に応じた支援を行う。
地域連携 学校運営協議会	教務部	①学校運営協議会を通して、教育活動への協力、評価を受ける。また、中学校ブロックを中心とした地域・保護者との連携を深める。②学校教育に地域の教育力を活用する。③地域の行事等に児童、保護者が参加しやすいような取り組みを進める。
安全管理	健康安全指導部	①防犯・防災対応について周知を図る。また、校外学習等での緊急時の対応についても計画する。②安全管理については、中学校ブロックでも協議の場をもつ。③災害が予想されるときには、メール配信やプリントで注意喚起をする。④健康面でも、メール配信を活用する。（病気やけがの予防、流行の防止、健康の増進など）⑤避難訓練等の計画を見直し、避難経路を確実に確認できるようにする。
コミュニケーション　能力の育成	児童支援部	①年間を通して計画的に挨拶運動を行う。この活動を通して、児童が挨拶し合うことの心地よさを感じたり、保護者や地域の方など学校に関わる様々な人と関わったりできる機会を増やす。②たてわり活動やニコフェス活動など異学年が関わり合う活動を通して、異学年とのコミュニケーションの充実を図る。③児童が関わり合う活動を取り入れた授業研究に取り組み、主体的な学びと共にコミュニケーション能力の育成を目指す。
いじめへの対応	いじめ防止対策委員会	①いじめ防止対策委員会を設置して定期的及び 臨時的に開催するとともに、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に組織的に取り組む。②アンケートや児童一人一人への教育相談 を定期的に実施し、児童理解を深め、いじめの早期発見に努める。③Y―Pアセスメントやプログラムを実施し、温かな集団をつくる。
人材育成・ 組織運営 （働き方改革）	教務部	①メンターチームを中心に、研究・研修など人材育成の仕組み作りをさらに進める。経験の少ない教員でメンター研修を行い、授業力・児童指導向上に取り組み、日々の実践に生かしていく。②月に一回教務会と学年主任会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校運営していく場を設ける。③掲示板等を活用して、情報の共有化を図るとともに、庶務事務システムを活用し事務の簡便化、効率化を図り、働き方改革につなげる。